

スマホ世代の高校生が感じた地域の魅力とは？ ローカルの価値を発信する

新しい「聞き書き甲子園」の成果発表会を開催

高校生が取材で訪れた地域やそこで出会った名人の魅力など、約1年間の活動の成果を発表するフォーラムを3月21日（土）都内にて開催します。

「聞き書き甲子園」実行委員会（農林水産省/文部科学省/環境省/国土緑化推進機構/NPO 法人共存の森ネットワークで構成）は、同甲子園の成果を発表する「第18回聞き書き甲子園フォーラム」を3月21日（土）に都内で開催します。「聞き書き甲子園」とは、日本全国の高校生が「森・川・海の名人」を訪ね、自然と共に生きる知恵や技術、価値観を一对一で聞き書きし、記録するプロジェクトです。本年度より、名人の推薦と高校生の受け入れに協力する市町村（地域）を公募し、実施しています。



2019年度の受け入れ自治体



当日は今年度聞き書きを行った12地域や、取材した名人の魅力などを高校生が発表します。壇上での発表に加え、高校生が手作りしたパネル展示も行い、彼らが実際に地域を歩いて感じたことや、名人が大切にされてきた価値観なども発信します。

また、本年度より特に優秀な作品に対し、農林水産大臣賞・環境大臣賞・文部科学大臣賞・林野庁長官賞・ファミリーマート特別賞などを授与。

さらに、文筆家の阿川佐和子氏と作家の塩野米松氏による、名人と高校生へのインタビューも行います。

つきましては、フォーラム参加者募集について、広くご案内いただきますようご協力をお願い致します。また、取材していただける場合は、事前に当実行委員会事務局までご連絡ください。

【概要】

- ◆日時：2020年3月21日（土） 開場 12:30 開会 13:00 閉会 16:30
- ◆会場：都庁・都民ホール／都政ギャラリー（展示）（JR 新宿駅西口から徒歩約10分）
- ◆定員：150名（無料）事前予約制（席に余裕がある場合、当日受付可）
- ◆主なプログラム：
 - ・聞き書きをした12地域の紹介
 - ・優秀作品の表彰
 - ・「森・川・海の名人」と高校生の体験談〔聞き手：阿川佐和子氏（文筆家）・塩野米松氏（作家）〕
- ◆お問い合わせ・お申し込み：聞き書き甲子園実行委員会事務局（NPO 法人共存の森ネットワーク内）
TEL：03-6432-6580 FAX：03-6432-6590 E-mail：contact@kikigaki.net



【「聞き書き」とは】

「聞き書き」の基本は、一対一のコミュニケーションです。高校生は、「名人」との対話をすべて録音し、そのデータを一言一句、書き起こします。さらに、その書き起こしを整理し、「名人」の言葉だけを使って、その語り口を生かしながら作品にまとめていきます。

「名人」との出会いをきっかけに、自分の進路を見つめ直し、新たな一步を踏み出した卒業生は全国各地で活躍しています。

「聞き書き甲子園」は ESD（持続可能な開発のための教育）の事例としても高く評価されています。

【登壇者プロフィール】

阿川佐和子（文筆家）

1953年東京に生まれる。慶応義塾大学文学部西洋史学科卒業。TBS「朝のホットライン」「情報デスク Today」「筑紫哲也 NEWS23」などでリポーターやキャスターを務める。檀ふみとの共著『ああ言えばこう食う』で、第15回講談社エッセイ賞受賞。『ウメ子』で、第15回坪田譲治文学賞、『婚約のあとで』で第15回島清恋愛文学賞を受賞するなど、作家として活躍している。現在はTBS「サワコの朝」、テレビ朝日「たけしのTVタックル」にレギュラー出演中。2012年に出版された『聞く力』は170万部のベストセラーとなっている。

塩野米松（作家）

1947年秋田に生まれる。芥川賞候補4回。小説やエッセイ、絵本と幅広い執筆活動を行う傍ら、人々の暮らしや職人の仕事を追って各地で聞き書きを続けている。著書に法隆寺の最後の棟梁といわれた西岡常一氏やその弟子に聞き書きした『木のいのち 木のころ』の他、『失われた手仕事の思想』『大黒柱に刻まれた家族の百年』『にっぽんの漁師』『手業に学べ』『登頂 竹内洋岳』『もやし屋—秋田今野商店の100年』など多数。第1回聞き書き甲子園より講師を務める。

